

満州駐劄
明治42年
9月22日

満州派遣の諸準備既に整ひ、本日午前六時威風堂々として屯営出發す。(派遣隊將校同相当官は附表第二 略)

丸亀市民並に沿道の住民歡送至らざるなく、万歳声裡に正午訖間に達す。
嗚呼名譽ある我軍旗茲に三度満州の野に輝かんとす、快哉。
午後三時三十分、琴平丸に搭乗し、愈訖間を出發す。

- 25日 夕、大連着。
26日 早朝、柳樹屯に向ひ午前九時上陸し、屯営に至る。
27日 歩兵第20聯隊と交代を了し、守備の大任に就く。
28日 歩兵第十二聯隊附 陸軍歩兵中尉 村尾 源次
免本職補歩兵第十二聯隊大隊副官。
- 10月14・15日 両日、前南関嶺附近に於て検閲射撃を施行す。
28日 故伊藤公爵儀杖兵として聯隊は海路大連に至る。
11月8日 歩兵操典を改正し之れが施行を命ぜらる。
10日 左記見習は將校會議に可決す。
- | | | |
|------|----|-----|
| 見習士官 | 西山 | 茂 |
| 同 | 中張 | 歎一郎 |
| 同 | 平田 | 耕之助 |
| 同 | 宮地 | 忠一 |
| 同 | 宮本 | 徳一 |
| 同 | 森 | 和市 |
| 同 | 津田 | 愛吉 |
- 11日 歩兵大尉中内啓二、戸山学校戰術科学生として二十五日入校の為出發す。
左記士官候補生七名、士官学校入校の為出發す。
- | | | |
|-------|----|----|
| 士官候補生 | 里見 | 金二 |
| 同 | 吉本 | 良 |
| 同 | 中山 | 惇 |
| 同 | 中井 | 均 |
| 同 | 増田 | 六男 |
| 同 | 沢 | 雅夫 |
| 同 | 山崎 | 楠喜 |
- 14日 留守隊要員及満期歸休者、歸還の為出發す。
戸山学校体操科下士学生として三名出發す。
24日 歩兵少尉伊藤佐平、戸山学校体操科学生として十二月十日入校の為、出發す。
27日 旅順表忠塔竣工式参列の為、聯隊は海路旅順に至る。
28日 表忠塔竣工式に参列し、白玉山納骨堂に参拝す。
29日 中隊各個に戦跡の見学をなす。
- 12月1日 鐵路歸營す。
3・4日 中・少尉の学科試験を施行す。
10日 歩兵第十二聯隊中隊長 陸軍歩兵大尉 中村 祐真
免本職補台湾總督府陸軍參謀
- 10・11日 兵器支廠員に於て兵器検査を施行せらる。
15・16・17日 三日間、下士以下銃劍術競技会を施行す。

15日	諸勤務の関係上、当分の間各中隊の軍旗衛兵を二名に減員す。		
21日		歩兵大尉	榎本 佳樹
		歩兵中尉	浦川 留作
		同	松田 弥八
		歩兵少尉	高岡 貞
		二等軍医	畠 寛治
	下士 一三名、新兵八五五名	右本日着隊す。	
15日		歩兵中尉	角 峰造
	留守隊附		
	任陸軍歩兵大尉、補歩兵第十二聯隊中隊長（留守隊中隊長）		
20日		歩兵大尉	島田 伊三郎
		同	榎本 佳樹
		同	石田 玉吉
27日		同	野上 栄太郎
	右従六位に叙せらる。		
23日	歩兵第十二聯隊大隊副官	陸軍歩兵中尉	武雄 俊一
	免本職補陸軍經理学校生徒隊附。		
25日	第十二聯隊附	見習士官	西山 茂
	同		中張 歆一郎
	歩兵第六十二聯隊附		
		同	平田 耕之輔
	歩兵第十二聯隊附		
		同	宮地 忠一
	歩兵第六十三聯隊附	同	宮本 徳一
	歩兵第十二聯隊附	同	森 和市
	歩兵第七十一聯隊附	同	津田 愛吉
	歩兵第十二聯隊附	同	寺田 康吉
	右陸軍歩兵少尉に任じ各頭書の聯隊附に補せらる。		
26日		陸軍三等主計	筒井 又一
	歩兵第十二聯隊附被仰付。		
29日		歩兵中尉	安藤 儀次郎
	当派遣隊附を免じ留守隊附を命ぜらる。		
		歩兵大尉	堀川 忠文
	留守隊中隊長を免じ、当派遣隊中隊長を命ぜらる。		

明治43年

1月1日	遥拝式を施行す。		
3日	聯隊挙て南山に兎狩を施行す。		
4日	中・少尉剣術競技会を施行す。		
6日	高岡少尉、留守隊に帰還す。		
8日	陸軍始に付、観兵式を施行す。		
		歩兵大尉	堀川 忠文
14日	四十二年兵補闕兵	一二名	
	右本日着隊す。		
16日		歩兵中佐	大野 豊四

教育総監部へ召集を命ぜられ出発す。

19日 譜調学生として下士一名、戸山学校に派遣す。

21日 歩兵第十二聯隊附 陸軍歩兵中尉 宮本 義明
免本職補歩兵第十二聯隊大隊副官。

25日 歩兵第十二聯隊副官 陸軍歩兵大尉 石田 玉吉
免本職補第十一師団副官。

2月8日 歩兵第十二聯隊中隊長陸軍歩兵大尉 成田 彭蔵
免本職補歩兵第十二聯隊副官。

10日 聯隊本部附近に於て廠営演習を施行す。

12日 関東都督府宮田参謀、当隊を巡視せらる。

17日 大野中佐、上京中の処帰着す。
関東都督府三浦軍医部長、当隊を巡視せらる。

陸軍中央幼年学校附 陸軍歩兵中尉 福島 恪次
免本職補歩兵第十二聯隊附。

21日 陸軍歩兵大尉 高橋 佐太郎
補歩兵第十二聯隊中隊長。

陸軍歩兵少尉 西山 茂
同 中張 歆一郎
同 宮地 忠一
同 森 和市
同 寺田 康吉

叙正八位。

3月10日 第五回陸軍記念日に付、祝意を表す。

14日 擔架術修業兵検閲を施行す。

17日 機関銃特業者教育を開始す。

11日 歩兵大尉 中内 啓二
叙従六位。

25日 関東都督府陸軍部星野参謀長、都督の命に依り、当隊を巡視せらる。

29日 丸亀衛戍病院要員看護卒として兵卒一名帰還す。

30日 歩兵少尉中張歆一郎、外下士二名、歩兵通信術修習の為、工兵第十一大隊に派遣す。

三等軍医 原 季

本年度徴兵副医官として内地帰還す。

4月1日 歩兵大尉中沢明輝、当派遣隊中隊長を命ぜらる。
歩兵中尉藤忠義、当派遣隊附を命ぜらる。

8日 計手一名、家事故障の為、現役を免除す。

16日 秋山騎兵監、当隊を視察せらる。

22・23日 両日古兵第一期検閲を施行す。

27・28・29日 三日間新兵第一期検閲を施行す。

25日 歩兵第十旅団副官 陸軍歩兵中尉 酒井 幾造
任陸軍歩兵大尉、補歩兵第十二聯隊中隊長。

28日 通信術修習者中張少尉以下帰隊す。

29日 歩兵少尉西山茂外下士三名、歩兵工作特別教育修習の為、工兵第十一大隊派遣す。

30日 第十二聯隊附 陸軍三等主計 筒井 又一
免本職補歩兵第六十二聯隊附。

		歩兵第十二聯隊附	陸軍二等主計	永田	彦吉
		予備役被仰付。			
		歩兵第三十九聯隊附	陸軍三等主計	平田	稔
		免本職補歩兵第十二聯隊附。			
5月	13日	歩兵大尉野上栄太郎、当聯隊留守隊附を命ぜらる。			
	17日	大島関東都督、当隊の検閲を施行せらる。其の結果、一般に良好なるの講評を得たり。			
	20日	英国先皇帝陛下大葬挙行に付、一般に半旗を掲げ弔意を表す。			
	25日	歩兵第十二聯隊附	陸軍二等主計	落合	六四郎
		免本職、歩兵第六十二聯隊附被仰付。			
		歩兵第六十二聯隊附	陸軍三等主計	沼野	浪平
		免本職、歩兵第十二聯隊附被仰付。			
	26日	南山招魂祭挙行に付、各中隊毎に参拝す。			
	30・31日	兵器検査を施行す。			
	27日	第二大隊副官乗馬斃死す。			
6月	1日	西山少尉以下、工兵第十一大隊より帰隊す。			
6月	7日		士官候補生	原田	熊吉
			同	佐藤	覚一
			同	国方	慶三
			同	石川	茂
			同	鍋島	秀夫
			同	岡藤	甚三
			同	吉岡	寿
		陸軍士官学校卒業、留守隊帰還に付、見習士官を命ず。			
	13日	機関銃特業者検閲を施行す。			
	17日	当隊保管馬匹検査を施行せらる。			
	18日	伏見宮貞愛親王殿下、英国より御帰途、大房身御通過せらる。見習士官七名、着隊す。			
		当隊配属の左記士官候補生着隊す。			
			士官候補生	三上	強介
			同	田中	等
		原軍医、徴兵副医官として出張中の所、帰隊す。			
18・19・20日		三日間、師団経理部長の会計経理の検査を施行せらる。			
	18日	独立守備第五大隊附	陸軍歩兵中尉	桜田	虎男
		免本職補歩兵第十二聯隊附。			
7月	12日	師団長代理河村参謀長、当隊を検閲せらる。			
	25日		歩兵中尉	桜田	虎男
		留守隊附を命ぜらる。			
			歩兵少尉	谷本	正義
		派遣隊附を命ぜらる。			
8月	2日	第九中隊二等卒口口勇、赤痢病に罹り死亡す。			
	5日	歩兵大尉中内啓二、歩兵少尉伊藤佐平、下士二名、戸山学校より帰隊す。			
	8日		歩兵中尉	中村	甚吉
		丸亀聯隊区司令部附勤務を命ぜらる。			
	9日	兵卒三名、蹄鉄術修業の為、野砲兵第十一聯隊に派遣す。			
	13日		歩兵中尉	坂東	梅二

派遣隊附を命ぜらる。

15日 第十二中隊上等兵口口彦三郎、病気の為死亡す。

20日 二等主計 沼野 浪平

叙従七位

22・29日 両日、下士以下銃剣術競技会を施行す。

31日 兵卒六名、貸与馬飼養兵修業の為、野砲兵聯隊に派遣す。
經理部下士修業の為、上等兵二名、歩兵第四十四聯隊に派遣す。

9月9日 当聯隊第三十五回軍旗祭を挙行す。

11日 第五中隊二等卒口口伝吉、病気の為死亡す。

12日 師団長代理太田少将、当隊を檢閲せらる。

20日 名譽射撃を施行せらる。当日天候等の結果成績挙げらず、終に長蛇を逸せしは、遺憾やる方なし。

22日 歩兵中尉 矢野 機

留守隊附を命ぜらる。

30日 歩兵大尉 浜田 真柱
同 堀川 忠文

叙従六位。

歩兵中尉 宮本 義明

叙正七位。

10月3日 第四期檢閲を施行せらる。

10日・11日・12日・13日 四日間、南関嶺附近に於て檢閲射撃を施行す。

12日 兵卒一名、喇弧手として陸軍中央幼年学校に派遣す。

14日 伊地知師団長、当隊を巡視せらる。

14日・18日・19日 三日間、将校以下銃剣術競技会を施行す。

18日 二等主計 沼野 浪平

予備役被仰付。
歩兵第六十聯隊附 三等主計 荻坂 巖比古
当聯隊附被仰付。

19日 愛媛県平民 立花 芳夫
同 田村 禎一
山口県士族 梶山 芳三
同 小田 登

右本年度士官候補生として当聯隊に配布せらる。

22日 兵卒二名、憲兵上等兵を命ぜらる。

25日より29日に亙る五日間、三十里堡・營城子間に於て諸兵連合演習を実施せらる。

25日 憲兵上等兵一名は長春憲兵分隊に、他の一名は奉天憲兵分隊に赴任す。
歩兵中尉 篠原 誠一郎
士官候補生 楠瀬 正雄
外五名

11月1日 右野外作業実施及戦跡見学の為め、奉天・遼陽・旅順方面へ出張す。
午後一時將校集会所に於て、左記見習士官の為め選挙會議を行ひ、同時全部可決せらる。

見習士官 原田 熊吉
同 佐藤 党一
同 国方 廣三

		同	石川	茂
		同	鍋島	秀夫
		同	岡藤	甚三
		同	吉岡	寿
		計手一名、当聯隊附を免ぜられ、第11師団経孫部附を命ぜらる。又、第六十三聯隊附計手一名当聯隊附を命ぜらる。		
4日		満期帰休兵、留守隊附同上下士、新兵引率下士以下八百六十三名、仁川丸に乗船、帰還す。		
		歩兵大尉	島田	伊三郎
		歩兵中尉	宮本	義明
		歩兵少尉	漆原	倉吉
		同	丸尾	甚三郎
		二等軍医	畠	寛治
		満期帰休者、留守隊附下士兵卒及新兵引率の為め帰還す。		
15日		三等主計	平田	稔
		留守隊附を命ぜらる。		
		三等主計	青	時助
		派濤啄附を命ぜらる。		
16日		士官候補生	池上	克馬
		同	三上	強介
		同	山本	角太郎
		同	楠瀬	正
		雄		
		同	園田	賢一
		同	田中	等
		右軍曹の階級に進め、士官学校に分遣を命ぜらる。		
19日		下士三名、体操科学生として戸山学校へ入校を命ぜらる。		
26日		歩兵少尉	漆原	音吉
		同	丸尾	甚三郎
		二等軍医	畠	寛治
		留守隊附を命ぜらる。		
		歩兵少尉	矢野	為章
		同	高岡	貞
		二等軍医	漆原	亮平
		派遣隊附を命ぜらる。		
11月30日		二等軍医	漆原	亮平
		一等軍医に任じ、当聯隊附に補せらる。		
		歩兵少尉	斎藤	弥平太
		同	矢野	為章
		同	中井	重義
		同	西尾	鹿衛
		同	伊藤	佐平
		同	谷本	正義
		同	漆原	音吉
		同	丸尾	甚三郎

		同	山本	忠孝
		同	遠山	英信
		同	桑田	精一
	右中尉に任ぜらる。			
		三等主計	荻坂	巖比古
	右二等主計に任ぜらる。			
		三等軍医	田村	伝次郎
		同	原	季
	右二等軍医に任ぜらる。			
		二等軍医	田村	伝次郎
	免当聯隊附補騎兵第十一聯隊附。			
				三
		等軍医	南川	義一
	当聯隊附に補せらる。			
	下士十七名、満期解隊す。			
12月1日	看護長一名、当聯隊附を免じ、善通寺衛戍病院附を命ぜらる。			
	兵卒一名、憲兵上等兵を命ぜられ、旅順関東憲兵隊本部附を命ぜらる。			
		歩兵中佐	大野	豊四
		歩兵大尉	堀川	忠文
		歩兵中尉	浜村	伝兵衛
		同	中西	正
		同	藤	忠義
		歩兵少尉	中井	重義
		同	西尾	鹿衛
		同	山本	忠孝
		同	遠山	英信
		同	桑田	精一
		同	吉本	貞一
		同	宮地	忠一
		同	森	和市
		同	寺田	康吉
				見習士官六名、計手一名
	右自一日至五日間、現地講話並に戦跡見学の為め奉天附近に出張す。			
2日		二等主計	荻坂	巖比古
	派遣隊附を命ぜらる。			
7日	歩兵少佐前田市之介、戸山学校少佐学生として分遣を命ぜらる。			
3日		歩兵大尉	中沢	明輝
	右捧捶島・三山島方面衛兵所備付被服検査の為め、該地に出張を命ぜらる。			
5日	第十一中隊一等卒一、憲兵上等兵を命ぜらる。			
7日		二等軍医	漆原	亮平
	右任一等軍医、被補当聯隊附。			
8日	上等兵一、兵卒三、大連師団出張員助手として該地へ出張を命ぜらる。			
12日	太田旅団長病気の為め、京都大学病院へ入院に付、不在中歩兵第六十			

- 二聯隊長橋口勇馬に旅団長職務代理を命ぜらる。
 16日 第四中隊曹長 細谷 善太
 右者の下士勤功章授与式を挙行せらる。
 軍曹1、広島陸軍地方幼年学校附を命ぜらる。
- 20日 歩兵中尉 福島 恪次
 同 矢野 機
 右陸軍大学校に入校を命ぜらる。(十二月十二日附)
- 21日 歩兵大尉 榎本 佳樹
 右前田少佐戸山学校在学中、第一大隊長代理を命ず。
- 22日 午前十一時、新兵八百六十四名仁川丸より上陸す。
- 23日 新兵入隊式を挙行す。
- 27日 歩兵中尉 大浜 石太郎
 免陸軍戸山学校附、被補当聯隊附(但し陸軍大学校に入校)
- 31日 歩兵少佐 浜田 楠猪
 右任歩兵中佐、補歩兵第十三聯隊附。
- 歩兵少佐 多田 庫雄
 右免当聯隊附補当聯隊大隊長。
- 歩兵少佐 佐々木 久雄
 右補当聯隊附。
- (以上12月23日附)
- 28日 聯隊特別射撃を施行す。

明治44年
 1月4日

原田 熊吉
 右任歩兵少尉、補歩兵第四十四聯隊附。

佐藤 覚一
 国方 慶三
 石川 茂
 鍋島 秀夫
 岡藤 甚三
 吉岡 寿

- 右任歩兵少尉、補当聯隊附。
- 8日 降雪の爲め、陸軍始分列式を取止む。
- 7日 三等軍医南川義一外看護長一、明治四十四年度橋架術教育教官を命ず。
- 9日 南満州鉄道沿線肺「ペスト」蔓延の兆あるに付、関東都督府伝染病予防実施手続に依り、第二期予防を実施す。
- 10日 歩兵中尉 西岡 逸雄
 同 斎藤 弥平太
 同 矢野 機
 右当聯隊留守隊附を免じ、派遣隊附を命ず。
- 15日 関東都督の命令に基き「ペスト」予防の爲め、分遣隊を編成す。司令歩兵

中尉浜村伝兵衛、下士上等兵五、一二等卒四七、喇叭手一、看護長一、上等看護卒一。

- 20日 歩兵中尉 坂東 梅二
右当聯隊附を免じ、独立守備第五大隊附に補せらる。(一月十二日附)
- 22日 依田師団長着隊の爲め、聯隊一般柳樹屯棧橋より旅団に亘る間に堵列す。
- 23日 師団長の宮内巡視あり。
- 28日 軍曹一、陸軍懲治隊に分遣を命ぜらる。
歩兵中尉西尾鹿衛、外軍曹一、伍長一、右歩兵通信術修習の爲め、工兵第十一大隊に派遣を命ず。
- 2月1日 兵卒一、現役を免除す。
- 6日 歩兵曹長 唐津 水澄
右下士勤功章を授与す。
- 9日 歩兵大尉堀川忠文外将校十二名、士官候補生四、十二日より二泊の予定を以て、旅順方面に戦績講話の爲め出張す。
- 10日 新兵五名、明治四十三年兵補充員として本日到着す。
- 21日 一等軍医 漆原 亮平
右正七位に叙せらる。(二月十日附)
- 3月1日 上田侍従武官、勲旨を奉じて本日午前九時着隊せらる、
勲旨
今度第十一師団交代ノ趣、勲聞ニ達シ、二年間ノ苦勞ヲ慰撫セラレ、
且ツ将校以下一般ニ御酒肴料ヲ、患者ニ御菓子料ヲ下賜セラル。
皇后陛下ニハ他国ニアリテ多年ノ勤務ニ服シタルニ拘ラス、一同頗ル健全ナルヲ満足ニ思召サルハ旨、令旨アリタリ。
- 17日 歩兵少尉 佐藤 覚一
同 国方 慶三
同 石川 茂
同 鍋島 秀夫
同 岡藤 甚三
同 吉岡 濤
三等主計 戸剛 茂
- 4月1日 右正八位に叙せらる。(三月十日附)
本日より向ふ三日間、新兵第一期検閲を施行す。
- 5日 中内大尉外将校三名、下士三名、先発員として本日大連出帆開城丸にて帰還の途に就く。
- 4月7日 一等主計 中川 正道
右当聯隊附を免じ、重砲兵第六聯隊附第十二師団經理部員に補せらる(三月三十一日附)。

関東都督送別ノ辞

曩ニ第十一師団ノ任ニ満州駐劄ニ就クヤ本官聊カ希望ヲ述ヘ期待スル所アリ爾来殆トニ星霜此ノ間互寒ヲ凌キ酷暑ニ耐ヘ訓練ニ勤務ニ其ノ効果ヲ収メテ海外守備ノ重任ヲ完ウセルハ師団長以下精勵ノ致ス所ニシテ本官ノ満足ヲ表スル所ナリ
惟フニ駐劄期間永キニアラスト雖モ山河ノ形勢竝風土氣候ハ自ラ母国ト其ノ趣ヲ異ニシ軍隊練成上獲得シタル諸般ノ利益ハ蓋シ鮮少ナラサルヘシ爾今益々研

鑽ヲ積ミ以テ軍国ニ貢献セラレムコトヲ望ム
今ヤ交代帰還ノ期漸ク迫リ本官統率ノ關係亦將ニ絶ヘムトス冀クハ將校以下切
ニ加餐撰養セラレムコトヲ茲ニ衷情ヲ叙シテ以テ送別ノ辞トナス

明治四十四年四月四日

関東都督 子爵 大鳥 義昌

師団長拝答ノ辞

鳥兔忽々既ニ殆ト二年前我師団満州駐劄ノ任ニ就キ閣下ニ隸屬スルノ光荣ヲ得
タル当初閣下ハ帥団ノ則ルヘキ諸要件ヲ懇諭セラル爾来一同拳々之ヲ服膺シ以
テ高慮ニ副ハンコトヲ努メシモ愧ラクハ何等効果ノ得テ見ルニ足ルヘキモノナ
クシテ意ニ交代帰還ノ今日トナリシヲ然ルニ却テ優渥応分ナル送別ノ芳辞ヲ辱
フシー同感極テ暗涙ニ咽フノミ若シ夫レ師団力幸ニ大過ナク海外守備ノ重任ヲ
果スヲ得タリトセハ蓋シ閣下高庇ノ賜ニ外ナラサルナリ
高論ノ如ク駐劄期間永カラサリシモ駐劄地ノ風土氣候地勢殊ニ戦跡ニ就キ師団
力経験シ得タル利益ハ少ナカラス況ヤ閣下ノ薰陶尚大ニ之レニ若クモノアルニ
於テオヤ爾今之ニ抛リ益々研鑽シテ師団ノ精銳ヲ養ヒ聊カ他日ノ報効ヲ期セン
トス果シテ然ラハ又以テ閣下殊遇ノ萬一ニ酬ルコトヲ得ルニ庶幾ンカ
今ヤ師団力尊崇敬慕スル閣下ノ隸屬ヲ離ルノ已ナキニ至リ惜別ノ衷情洵ニ忍
フ能ハサルナリ依田ハ茲ニ師団ヲ代表シ满腔ノ熱誠ヲ披瀝シ謹テ閣下ノ御健康
ヲ祝シ御文徳御武功ノ弥増御隆昌ヲ祈リ猶将来ニ於テモ師団春顧ノ恵ヲ垂レラ
レムコトヲ冀ヒ更ニ優渥過分ナル送別ノ芳辞ニ対スル感謝ノ誠意ヲ表ス

明治四十四年四月 日

第十一師団長 陸軍中将依田 廣太郎

4月11日 第十二聯隊附 一等軍医 赤坂 栄治

右本職を免ぜらる（四月四日附）

14日 歩兵第十一旅団司令部及歩兵第十一聯隊半部、上陸す。

15日 歩兵第十一聯隊の残部、上陸す。

正午、將校集會所に於て、太田・川村兩旅団長及兩聯隊將校會合し、柳樹
屯の官民を混じへて留送別會を催す。

左の区分を以て輸送せらるることとなる。

17日 琴平丸輸送指揮官 平田大佐聯隊本部・第一大隊・第二大隊（第
七・第八中隊欠）

18日 樺太丸輸送指揮官大野中佐第三大隊・第七・第八中隊

17日 歩兵第十一聯隊の軍樂及將校に送られ、柳樹屯を出発す。此日天氣晴朗な
り。午前十一時汽船は錨を巻いて行進を起す。我が聯隊は三度此所に来り
て、今や三度此地を去らんとす。二年間守備の大任を背負ふて起居せし柳
樹屯の兵營、波間に隠れ薄らぐとき誰か多少の感なからんや。

21日 宇品似島検疫所に到着、正午検疫を終り抜錨、詫間灣に向ふ。

22日 午前八時より揚陸を開始し、各中隊は上陸の順序を以て各個に白方に至
る。

白方より聯隊行軍を以て帰營す。市民の歡迎盛んなり。緑樹の上に聳立す
る龜城の動かぬ姿を眺めつゝ聯隊は二年振りに丸龜兵營の營門をくゞれ
り。

樺太丸を以て歸路に就きし大野中佐指揮の半聯隊は無事歸着せり。